

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和6年度 第4回 入間市障害者福祉審議会
開 催 日 時	令和7年3月4日(火) 午後3時00分 開会 / 午後4時30分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 B棟5階 全員協議会室
議 長 氏 名	今井 英雄
出席委員(者)氏名	今井 英雄 荻野 亨 黒古 次男 磯田 英穂 田邊 仁 川野 志保 岡内 藤雄 田中 智子 金平 里美 堀内 裕康 粕谷 浩史 新井 豊吉 横田 修
欠席委員(者)氏名	森田 秀子
説明者の職氏名	課長 小笠原 昌平 ・ 主幹 千葉 茂
会 議 次 第 (公開)	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1)次期障がい者福祉プラン策定に向けた障害者福祉に関するアンケート (2)入間市障害者福祉事業の見直しについて (3)令和7年度の障害者福祉審議会の開催予定について (4)その他 4 その他 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	2名
配 布 資 料	1 令和6年度 第4回 入間市障害者福祉審議会 次第 2 福祉に関するアンケート調査へのご協力をお願い 資料1 3 入間市重度心身障害者福祉手当給付事業の見直しについて 資料2 4 令和7年度入間市障害者福祉審議会 年間予定表 資料3
事務局職員職氏名	福祉部長 須田 美菜子 福祉部次長 忽滑谷 敦子 障害者支援課長 小笠原 昌平 主幹 千葉 茂 主幹 天満 葉月 副主幹 小俣 里子
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過)

○ 議題

(1)次期障がい者福祉プラン策定に向けた障害者福祉に関するアンケート調査について
事務局より説明。その後委員から質問、意見等。

(2)入間市障害者福祉事業の見直しについて
事務局より説明。その後委員から質問、意見等。

(3)令和7年度の障害者福祉審議会の開催予定について
事務局より説明。その後委員から質問、意見等。

(4)その他
特になし

○ その他
特になし

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
議長	(委員より発言が行われた部分のみ要点筆記とする) 次第3議題、「次期障がい者福祉プラン策定に向けた障害者福祉に関するアンケート調査について」に入る。事務局から説明願う。
主幹	(次期障がい者福祉プラン策定に向けた障害者福祉に関するアンケート調査について事務局より説明)
議長	ただいまの説明について質問・意見があるか。
荻野委員	調査における、等級・重度・中度等、割合は分かるか。
主幹	アンケートは、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、各500名を無作為に抽出している。回答の等級別割合は、身体障害者手帳が1級 32.3%、2級 28.9%、3級 14.7%、4級 14.7%、5級 4.5%、6級 4.9%、療育手帳は○A 20.8%、A 20.3%、B 23.8%、C 35.1%、精神保健福祉手帳は1級 12.2%、2級 60.9%、3級 26.9%という結果である。
田邊委員	前回も業務委託だが、どんな条件で委託したのか。対象者を任意で抽出と言うがその都度対象者が変わっても整合性が取れるのか。
主幹	業務委託をする際、アンケート調査用紙の編集・郵送・回収・集計・分析を出来る業者に、何社か見積もり合わせを行い決定している。また、アンケートの対象者は無作為で抽出しているが、前回の調査内容を大きく変更しないことにより整合性は図れると考えている。
岡内委員	アンケートの回答率が40.9%というのは低いのではないか。回答率について分析を行っているか。
議長	このアンケートは近隣の市町村は行っているか。
主幹	同様のプラン等の策定を近隣市でも行っているので、アンケートも実施していると思われるが、回答率については不明。
議長	近隣市の調査の回答率について確認し、次回に回答を求める。回答率の40%が高いか低いかについては、そのアンケートの相場がある。厚生労働省の外郭団体のアンケート調査回答率は20%ぐらいだった。
岡内委員	障害者は切実な問題を抱えている。アンケートが面倒なのか、書き方が分からなかったのか、市にはアンケートの回答率を高めるように何か策があれば対応を願いたい。
議長	岡内委員の意見を参考に回答率がなぜ低いのか、近隣市との比較も含め、事務を進めてほしい。

発 言 者	発 言 内 容
黒古委員	アンケートの中には施策やプランの中身についても質問しているが、前回との変更点や比較はあるか。
主幹	前回との比較、またプランの目標に近づけたかについて確認するには、全く違う内容のアンケートを行っても仕方がない。前回はベースに、制度的に変更があれば見直し、前回との変化が確認できる内容にしたいと考えている。
議長	黒古委員の意見のとおり、アンケートの内容を変更する場合は、変更点を確認できる資料提出を願う。 続いて「入間市障害者福祉事業の見直しについて」事務局より説明を願う。
課長	(入間市障害者福祉事業の見直しについて事務局より説明)
議長	ただいまの事務局の説明について、ご質問、ご意見があれば伺う。
岡内委員	賃金も不安定、体調を崩すことも多いのではないかと考える療育Bの方を対象とすることに理解をいただき嬉しく思う。
川野委員	療育Bを補助対象に含めるよう、県に働きかけを願いたい。
議長	他に意見が無ければ、新たな事業見直し（案）について賛成か反対か、挙手を願う。 賛成の方。（挙手12名） 反対の方。（挙手0名）
課長	（議長を除いた）12名全員の賛成に感謝を申し上げる。 今後も見直しが予定される中、今回と同様に審議会の望む結果となるかはなんとも言えないが、今後の見直しについても委員に意見をいただきながら進めていきたい。
議長	全会一致で事業見直し案に賛成との結果となり、日を改め市長へ答申を行う。正副会長で協議し、事務局で作成した答申書（案）を委員へ配布し、読み上げを願う。 －事務局より答申書（案）を委員へ配布－
主幹	「入間市障害者福祉事業の見直し（答申）」（案）を読み上げる。
議長	答申書（案）について質問、意見を願う。
黒古委員	県補助基準の見直しや社会環境の変化によって見直しというのは、更に減額も、逆に増額も両方あるということか。
課長	その通り。県の補助基準の見直しや障害基礎年金額の大幅な増額、物価等の状況により、今後も減額または増額の見直しは必要と考えている。

発 言 者	発 言 内 容
議長	他に質問や意見はあるか。 無いようなので、この答申書（案）の（案）を外し、市長へ答申を行うことで良いか。 《委員、賛成》
議長	では次に、「令和７年度入間市障害者福祉審議会年間開催予定」について説明を願う。
主幹	「令和７年度入間市障害者福祉審議会年間開催予定」日程について説明。
黒古委員	プラン策定は分科会に分かれるのか、またどのようなスケジュール、進め方を予定しているか。
議長	プラン策定に向けて分科会を始める時期について気になるが、来年度当初に予定される事業の見直し内容を見たうえで、事務局とも相談し、進め方について今後検討したい。
黒古委員	進め方については、今後の審議会で示していただけるという事か。
議長	正副会長と事務局で、進め方について協議する。
課長	事業の見直しについては来年度も予定されている。改正するには３回程度の審議会開催が必要ではないかと考えている。来年度の審議会日程では、９月の次が２月開催で間が空くので、場合によってはその間にもう１回追加するかを含めて、正副会長と相談し、進め方を考えたい。決まり次第報告させていただく。
議長	続いて議題４その他だが、事務局からあるか。
主幹	特になし。
新井委員	議題１で言い忘れたので、情報としてお伝えする。 アンケートの調査票４ページの問１１だが、診断名について、中学生以上はこれで問題ないが、診断マニュアルの改訂により、幼児から小学生位は欠陥・障害という言葉は使わなくなっているため、調査票も変わると思われる。
議長	今のご指摘について、事務局で修正願う。 本日の議題はこれで終了した。特に無いようであれば、これで議長の座を降ろさせていただく。 －市長入室－
課長	今井会長より本日の報告を願う。
会長	昨年１１月に諮問を受けた入間市障害者福祉事業の見直しについて、本

発 言 者	発 言 内 容
課長 市長	日までに3回の審議を経て、答申の目途が立ったので報告する。 では、市長よりご挨拶いただく。 審議会の議論の中でそれぞれの立場でのお考えをお聴かせいただき、諮問に対する答申の案を固められた事に感謝を申し上げる。 福祉サービスの充実は市民の満足度に直結し、市政にとって大きな課題である。一方で、30年、50年のスパンで見たときに、大変厳しい人口構成の中での運営となり、継続的に福祉のサービスを提供するためにはどうすればよいか、大変難しく、心痛い議論をお願いした。 今日は皆様方の意見、考えをぜひ聞かせていただきたい。
課長	時間に限りはあるが、せっきくの機会なので、委員の方から市長に聞いてみたい事、ご意見などを順に願う。
田邊委員	入間市に大きな企業が少ないので、税收等厳しい面や苦労があると思う。市役所建替えの関係である程度の期間、駐車場等の不便も出てくる。車椅子や視覚障害者の方の駐車場利用に配慮願う。
新井委員	少子高齢化が進み、医療の進歩により、障害者も増えている時代なので、福祉が大事であり、避けられない優先課題である。是非心に留めて予算を組んでいただけたらと願う。
横田委員	私が携わった地域福祉計画策定においては、外国人、生活困窮者、障害者、高齢者等、色々な方がいる。一番大事なのは当事者の声である。持続可能な地域福祉という事でやむを得ない部分もあると思うが、良い選択をしていただきたい。
岡内委員	一番聞いていただきたい事は、合理的配慮について。障害者でも工夫をすれば、一般の人と同じ土俵で競争もできる。バリアフリーもそうだが、制度改革、設備の改善を是非進めていただきたい。
川野委員	選挙の投票が、知的障害者にとって、とても大変な事である。投票しやすいような配慮を願う。
粕谷委員	社会の変化で見直しが必要なのは理解するが、世の中は複雑に絡み合っている。一方だけが最適になり、取り残される事が出ないよう、全体の最適を念頭に検討を願う。
黒古委員	「障がい者福祉プラン」はひらがなで「障がい」としている。このことは、差し障りがあるという言い方はいかなものかと考え、姿勢としてこの表記としている。 通常学校における障害のある子どもたちも含めた教育について、就学に

発 言 者	発 言 内 容
金平委員	あたったの合理的配慮をしながら、共に学ぶ機会を教育委員会とともに進めて欲しい。また、今回の見直しで手当が減額になったことに変わる支援を考える必要性を感じるので、就労支援への注力もお願いしたい。 プランを策定するのに大事なのが利用者や現場の声だと思うが、発信をする事が難しい障害者の方々が沢山いる。アンケートで浮かび上がらない事が発信できればと思う。見直し案も含め、この審議会の重要性を改めて感じている。
磯田委員	難病の周知のため、場所を借りて、パネル展を1カ月間行った。難病の中でも希少難病については、日本に10数名しかいない様な病気もある。医学の進歩のおかげで、そういう方も増えているが、なかなか政策の中に組み込む事が難しい。イベント等も行っているので、ぜひ支援を願う。
堀内委員	手当の見直しだが、県内で自治体が上乘せをしているところが少ない中、入間市は頑張ってきたと思う。
田中委員	18歳の崖という新聞記事を読んだ。支援学校や放課後デイサービスに行っていた人が、就労支援に行くが、時間も短く居場所が無い。4月から介護休暇が取れるようになるようだが、居場所拡充への取り組みを願う。
荻野委員	福祉手当の見直しでは、審議会の意見が大部分とおり、市長に感謝している。 入間市は相談支援がかなり充実しており、地区センターに包括が入り、地域に根ざしている。その中で、アウトリーチが不足していると感じる。相談に行きづらい方や、問題を相談する場が分からない方もいる。相談を待っているだけでなく、アウトリーチの手法を考えていただけたらと思う。社会福祉協議会はかなり地域に密着した仕事をしているので、活用を考えると良いと思う。
今井会長	福祉事業の見直しについて、新たな修正案を検討いただき、会長として感謝している。それにより、本日全会一致で承認いただくことができた。 また、来年度も見直しがあると聞き、財政状況は十分説明を受けているが、委員がやむを得ないと思えるような内容になるよう検討願う。
市長	庁舎の建替えにおいては、思いやり駐車場の台数を多めに設置する予定である。 皆さんからいただいた言葉一つ一つ本当に重要な課題で、しっかり受け止めていただけた。 私どもが今一番感じているのが、国家的な課題、社会保障をどうするか

発 言 者	発 言 内 容
課長 主幹 課長 荻野委員	ということ。国は赤字国債を発行することができるので、予算が足らなければ借金で賄うことが出来る。しかし、地方自治体に認められているのは建設市債のみのため、歳出予算が足らなくなった瞬間に、サービスを止めなければならない。その結果、国・県の事業を最優先させ、それ以外は全て切ることになるのが地方の現状である。入間市も老朽化した公共施設の建替え等、財政危機宣言をする日が遠くないという危機感から、今、見直しをしている。今までのものが無くなるというのは、精神的にも感情的にも負担が大きい。本当に何が必要なのか、個別最適でなく、全体最適になるようにご指摘・ご指導いただきながら一緒に知恵を出し合っていただけたらと思う。 市長はこの後別の公務があり、ここで退席する。次第4その他に移る。 次回の審議会等について事務局より説明。 ただいまの説明について、ご質問、ご意見があれば伺う。 それでは、閉会にあたり、荻野副会長からごあいさつを願う。 市、事務局も我々の意見に歩み寄った形でご苦勞があったと思う。以上で閉会する。
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和 7 年 3 月 27 日 議 長 の 署 名 <u>今井 英雄</u> 議長が指名した者の署名 <u>荻野 亨</u>	